
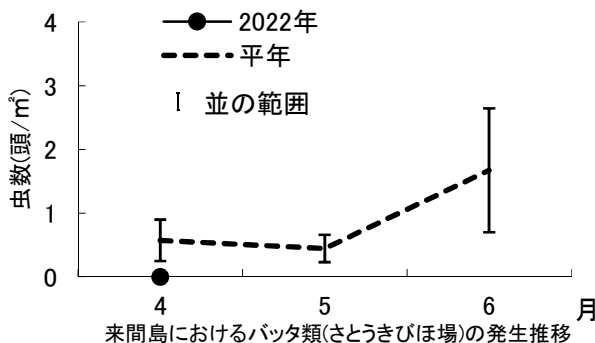
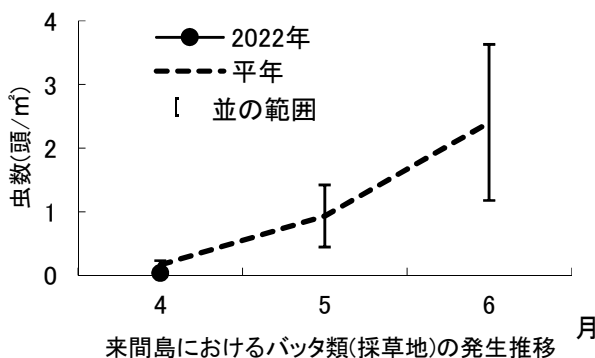


| | | | |
|-------|---------------|---------------|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | バッタ類 | |  |
| 調査結果 | 4 月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予報 | 4 月からの増減傾向 | ↗ | |
| | 5 月の発生量 (平年比) | やや少 | |
| 予報の根拠 | | 平年の発生量の推移 (↗) | |

調査結果


今期と平年の推移



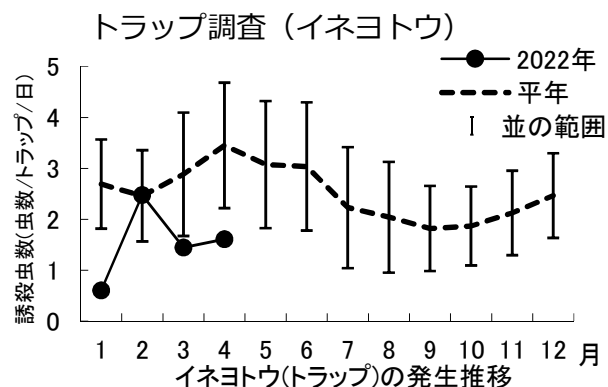
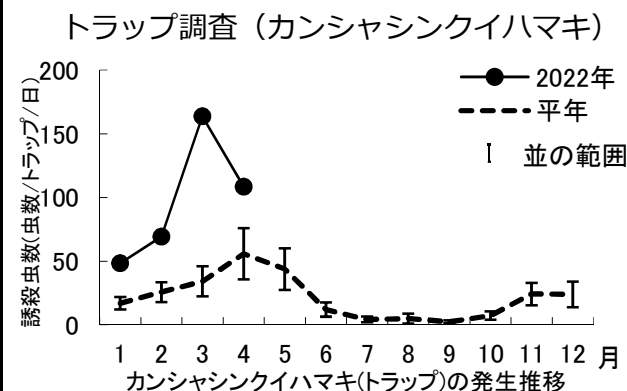
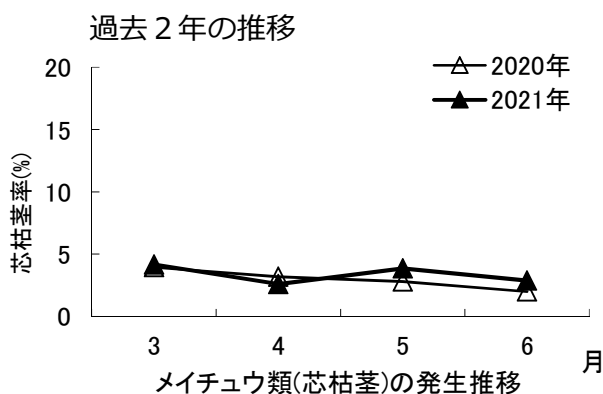
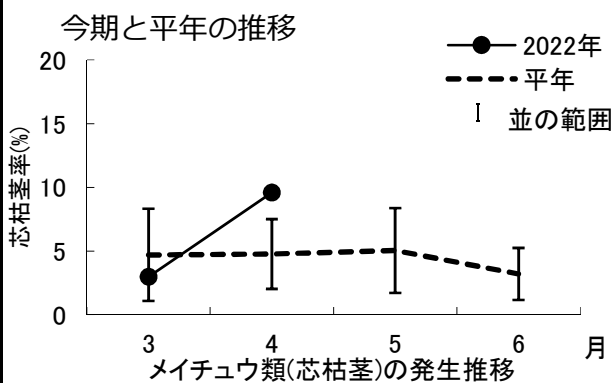
・発生種：台湾ツチイナゴ

防除のポイント

- ・発生源となるほ場及び周辺の雑草の除草を徹底する。
- ・幼虫期の防除が効果的なので、5～6月にほ場周辺の見回りを行い幼虫の早期発見・防除に努める。

| | | | |
|-------|----------------------------|--------------------|---|
| 作物 | さとうきび | 地域 | 宮古群島 |
| 病害虫名 | ① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) | |  |
| 調査結果 | 4 月の発生量 (平年比) | やや多 | |
| 予報 | 4 月からの増減傾向 | → | |
| | | 5 月の発生量 (平年比) | やや多 |
| 予報の根拠 | | 芯枯茎率の平年の発生量の推移 (→) | |

調査結果



- ・発生ほ場率：100%（平年値：90.2%）
- ・茎内で発見したメイチュウ類のうち、95.5%（21/22頭）がカンシャシクイハマキ、4.5%（1/22頭）がイネヨトウであった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。